

敦賀発電所敷地内破碎帯に関する外部レビューチームによる再評価の結果について

6月3日～5日、敦賀発電所敷地内の破碎帯に係る当社の調査及び評価について、国内外の専門家からなる外部レビューチームによって再調査が行われ、「昨年8月に報告した結論を変更する必要はない。」との評価が出されました。

日本原子力発電株式会社

今後、当社としては、原子力規制委員会との間で科学的、技術的な議論を十分に行い、活断層でないことをお認め頂くよう全力を尽くしてまいります。

外部レビューチームの見解の要旨

■原電から提供を受けた追加資料のレビューと現地調査を行った結果、「平成25年8月28日付の外部レビューチームの報告の結論を変更する必要はない。」というのが、外部レビューチームの総括的な見解である。

■G断層（D-1破碎帯）は、①層が堆積されて以降に活動した形跡の見られない、古い断層である。このことは、敦賀発電所2号機の下に、活断層はないことを意味する。

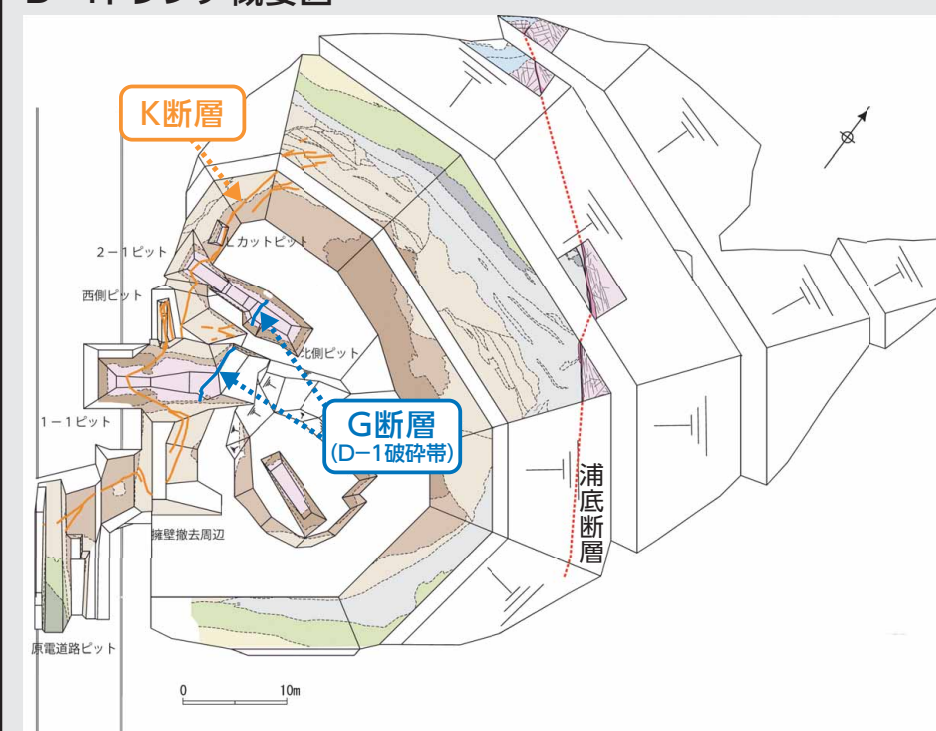
■K断層は、③層内で消滅しており、またD-1トレンチ内の露出している部分において、12万～13万年前以降に活動した証拠はない。従って、K断層は、原子力規制委員会の定義による「将来活動する可能性のある断層等」ではない。

■原電と原子力規制委員会の間でより緊密な対話が必要であることは、明らかである。

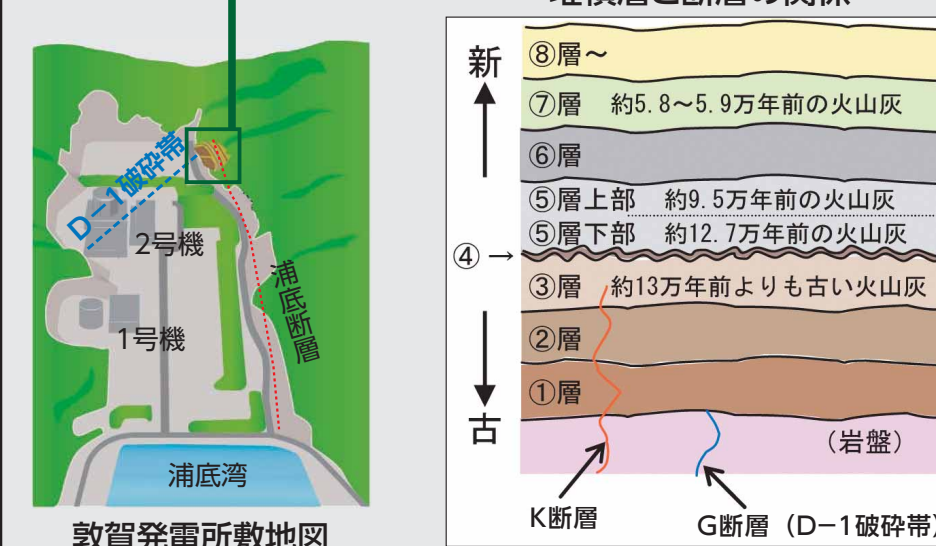


外部レビューチームの記者会見（6月5日撮影）

D-1トレンチ概要図



堆積層と断層の関係



【外部レビューチーム組織のメンバー】

TRM (Third-party Review Meeting) ※1

●は今回のレビューチーム参加者（▲はレビューのみ参加）

- ウッディ・エプシュタイン 氏（確率論的リスク評価）シニア・プリンシプル・コンサルタント
- 奥村晃史 氏（地質学）広島大学大学院文学部文学研究科教授
- 加藤碩一 氏（地質学）独立行政法人産業技術総合研究所 理学博士
- ▲ロイド・クラフ氏（地質学）米国元ネバダ大学地質学及び地球物理学准教授
- ピーター・ヤネフ氏（地震工学及びリスクマネジメント）米国カリフォルニア大学土木環境工学部審査会議
- 岡本孝司 氏（原子力工学）東京大学大学院工学系研究科原子力専攻長・教授

※1：ロイドグループのリスクマネジメント会社であるLloyd's Register Consulting（本社ノルウェー）を受託組織とするチーム。

IRG (International Review Group) ※2

●は今回のレビューチーム参加者

- ニール・チャップマン氏（地質環境学）英国シェフィールド大学材料科学・工学部教授
- ケルビン・ベリマン氏（地質学）ニュージーランドGNSサイエンス主任研究員
- ピラー・ピアモア氏（地質学）ニュージーランドGNSサイエンス主任研究員
- ニコラ・リッチフィールド氏（地質学）ニュージーランドGNSサイエンス上席研究員
- エイバース・ガーピナー氏（土木資質工学）元IAEA職員
- ウィリアム・アスピノール氏（地質学）
- ディビット・マラード氏（地質学）
- マーク・スターリング氏（地質学）ニュージーランドGNSサイエンス

※2：地層処分分野で世界的に活躍しているニール・チャップマン教授をリーダーとする地質学の専門家グループ。

【外部レビューチームによる現地調査の様子（6月3日）】



D-1トレンチ内での現地調査（6月3日撮影）



ボーリングコアによる堆積層の観察（6月3日撮影）



記者の質問に答える外部レビューチーム（6月3日撮影）

外部レビューチームの再評価の結果がオンラインニュースで世界に配信されました

今回外部レビューチームが行った敦賀発電所敷地内破砕帯の再調査における評価結果について、6月5日に東京で記者会見が行われました。

その模様について、世界原子力協会（WNA）※1は、情報サイトであるワールドニュークリアニュース（Wnn）※2で、6月10日に世界に向けて配信しました。

※1：安定供給・経済性・環境性に優れた原子力エネルギーを推進し、業界各社をサポートする国際的な組織

※2：世界の原子力に関するニュースをオンラインで配信

主な配信内容

- ・敦賀発電所の下を通る断層について、国際的な専門家チームが活動性はないとする見解を発表しました。
- ・また、原電と規制当局は、より緊密に議論を尽くすべきであると提言しました。



外部レビューチームの会見（6月5日撮影）

出典：[http://www.world-nuclear-news.org/](http://www.world-nuclear-news.org/RS-Tsuruga-faults-inactive-says-study-1006141.html)

RS-Tsuruga-faults-inactive-says-study-1006141.html

民間の有識者の研究会からも「活断層には該当しない」との見解が示されています

一般社団法人「原子力の安全と利用を促進する会※1」の「地震・津波分科会※2」は、敦賀発電所敷地内破砕帯の問題を取り上げ、原子力規制委員会有識者会合の評価書及び当社の報告書を検証し、活断層には該当しないとの報告書をまとめました。

検証の結果の概要

- ・D-1破砕帯は「将来活動する可能性のある断層等」には該当しない。
- ・平成25年5月に原子力規制委員会です承された有識者会合評価書にある「『耐震設計上考慮する活断層』である」と考える」の判断は見直す必要がある。

また、同会は、6月9日原子力規制委員会に対し、敦賀発電所敷地内破砕帯の評価について公開の場で議論を行うよう申し入れました。

詳細は「原子力の安全と利用を促進する会（<http://www.p-nsu.org>）」のホームページに掲載されています。

※1：平成25年10月に、エネルギーのベストミックスの重要性を鑑み、再生可能エネルギーの開発の適切な評価の下、我が国における原子力の安全と利用に資する行動を取ることを目的に設立（会長：有馬朗人 元文部大臣）

※2：委員は、地震・津波に関連する分野において広く実績のある専門家（主査：山崎晴雄 首都大学東京大学院教授 他5名）



日本原子力発電株式会社 敦賀地区本部 業務・立地部

お問い合わせ先 〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9-16 TEL 0770-25-5713（土日祝日を除く9時～17時）

敦賀発電所敷地内破砕帯調査に係る情報については、当社ホームページに掲載しています。 <http://www.japc.co.jp>